

(別紙 2) IP8800/S8600 の特長

- 高密度

「IP8800/S8632」は、16U(注 1)サイズで、最大 384 本の 10 ギガビットイーサネット回線が収容可能(注 2)でスペースの利用効率を改善できます。

- 高性能（高速大容量化）

100 ギガビットイーサネット回線をサポートします。また、6.4Tbps のバックプレーン容量は、将来 10Tbps 以上へ拡張可能で、今後実用化が予想される 400Gbps や 1000Gbps(1Tbps)の通信速度を持つ回線インターフェースにも対応可能です。

- 拡張性（無駄の無い増設）

既存設備で使用されている 1 ギガビットイーサネット回線と、今後の増設や大容量化のための 10 ギガビットイーサネット回線など、異なるインターフェースを効率よく混載して収容可能なマイクロラインカード構造を採用。1/4 スロットサイズのネットワークインターフェースカード単位で増設が可能なため、混載による無駄が少なく、段階的な容量増設の際にも、設備投資効率が改善できます。

- エアフロー

大型機だけではなく、中小型の「IP8800/S8616」、「IP8800/S8608」も前後吸排気のため、データセンター等で利用する際の熱設計が容易になります。

- 省電力

必要なときに必要な部分へ適切に電力を供給し、不要な部分は電力を削減するダイナミック省電力に加えて、通信トラヒックの量に応じて、よりきめ細かに電力を調整する、「フレックス省電力」を実装しました。

たとえば、ラインカードを収容する各スロットごとに、トラヒック量に応じて 4 段階の省電力制御を行うなど、装置の各部分ごとに省電力制御を行います。これにより、単なる運用効率の改善だけではなく、これからビジネスには必須となる、節電や CO₂ 削減に貢献できます。

- 運用性

予め定義した採取パターンでの全フローの統計採取や、VLAN の入出力ポートごと、ユニキャストの経路ごと、マルチキャストの経路の出力 IP インタフェースごとなど、多彩な統計機能を実現します。

また、通信断やエラーカウント数などを契機として、運用コマンドを実行したり、管理者へメールを送信するなどの動作をユーザによりプログラム可能とする、運用支援スクリプトをサポートします。これにより、ネットワーク運用の省力化が可能です。

(注 1) 16U :「U」はラックに収容する機器の高さを表す単位で、16U は約 710 mm

(注 2) 384 本の 10 ギガビットイーサネット回線が収容可能。今後、「IP8800/S8632」で 384 回線までサポート予定。